

16組の出場者が ランウェイに笑顔で登場

11月11日、商工センターで「行田足袋コレ2018」が開催されました。

新たな足袋のコーディネートなどを審査するこの大会に16組が出場。この日のために用意されたランウェイに、出場者がそれぞれ足袋に合わせた個性豊かな服装をし、笑顔で登場すると、会場からはたくさんの声援が上がっていました。



音色に合わせて伝統の舞を奉納

10月28日、市の無形民俗文化財に指定されている野の獅子舞が、久伊豆神社、諏訪神社、歓喜天社聖天堂、氷川神社に奉納されました。

野の獅子舞は、埼玉地区野地域に伝わる民俗芸能で、現在は野村ささら獅子舞保存会が保存・継承しています。五穀豊穡や家内安全などを願って、優雅に舞う3匹の獅子。色づく境内の木々の下、地元の子供たちがささらをこすって鳴らす音が笛や太鼓に重なる中、観衆は実りの秋を感じていました。



世界に行田の魅力を発信

今年7月にフランス・パリで「JapanExpo2018」が開催され、本市主催のステージイベント「行田足袋コレクション」を実施しました。このたび、入賞した優勝者ら3人を本市に招待し「行田アンバサダー」に委嘱しました。

11月8日から12日までの4泊5日の日程で、足袋工場見学、埴輪づくり、着物での街中歩き、行田商工祭・忍城時代まつりや行田足袋コレへの参加など、本市の魅力を存分に体験。帰国後は、1年間「行田アンバサダー」として、自国フランスでSNSを通じた本市のPRを行っていただきます。

食、歴史、足袋など 行田を満喫できる一日

11月11日、市役所周辺で第39回行田商工祭・忍城時代まつりが開催され、行田の食、歴史、足袋文化など満喫しようとたくさんの来場者でにぎわいました。

また、忍城址東門前では、獅子の会による火縄銃演武も行われ、その迫力をカメラや携帯電話に収めようと多くの観客がシャッターを押していました。



災害に備えて連携を強化

11月10日・11日の2日間、県立総合教育センターで行田市防災訓練が行われ、市内自治会および自主防災組織から180人が参加しました。

防災意識の高揚や住民連携、自助・共助の強化を図ることを目的に、給水袋を使用した応急給水訓練、傘やラップなど身近なものを使用した応急手当訓練、油圧ジャッキなどの救助資機材を使用した訓練などを実施。全国で地震や水害など自然災害が多発した今年、参加者はいつも以上に真剣に取り組んでいました。



会場を盛り上げる はつらつとした踊り

11月3日、南河原中学校駐車場で、南河原商工会主催による「第13回南河原ふれあい祭り」が開催されました。

会場は、市内の福祉団体や会員企業などの飲食・物品販売など多数のブースが設けられた他、さまざまな抽選会も行われ、子どもからお年寄りまで大勢の来場者でにぎわいました。また、ステージ前では、地元の皆さんが八木節を披露。そのはつらつとしたパフォーマンスに、演技後には来場者から盛大な拍手が送られました。



秋晴れの下、 約3,000人の市民が競技を楽しむ

10月28日、総合公園自由広場で第68回市民体育祭が開催され、市内全15地区から約3,000人の選手が集まりました。

昨年は台風の影響で中止となりましたが、今年はさわやかな秋晴れの下、各地区の精鋭たちが優勝を目指し熱戦を繰り広げました。また、オープン競技のパン食い競走では子どもから高齢者までたくさんの選手がつるされたパンを悪戦苦闘しながら口にくわえ、楽しそうにゴールしていました。

